

はじめに

学校に居られないから不登校になる、社会のどこにも居られないからひきこもる、現実世界に居られないから仮想空間にこもる、みんなと一緒にが苦手な人の、居場所って何だろうと考え続けています。もともと、個性的で、異なる人間が同じような空気の中に管理されていく、学校や社会のありようが、発達障がいの人たちの苦しさの原因の一つなのだろうと思います。

孤立した生活から、人とつながる生活に、一歩をふみだすときの居場所は、せめて、人と異なることを責められることなく、自分らしくいられる場所であるように工夫しています。

職員は、利用者を知ることから始め、慎重に、時間をかけて、関係をつくります。利用者にとっても、職員の安全性を確かめなければ、相談どころか、言いたいことも言えないでしょう。

発達障がいの人たちは、敏感さやこだわりが命がけなので、できる限り特性に配慮した環境を用意します。結果として、障がいのない人にとっても居心地の良い環境になっています。

人の中に入ると緊張する、疲れるという人が多いので、人と交流しなくてもできるプログラムを用意します。元来人は好きなので、慣れると、交流するプログラムに変化していきます。

子ども時代から失敗体験を重ねているので、安心して失敗できる雰囲気をつくります。職員も安心して失敗するので、みんなで助け合っってプログラムが成立する雰囲気です。

生まれたときから特性があり誰より発達障がいを体感している当事者同士の支えあいの機会をつくること。これが一番効果的かもしれません。

大人の発達障がいはようやく診断がでるようになり、支援が必要であることがわかった段階です。わかりにくい障がいなので、家族でさえ、本人が努力すれば何とかかなると思いき、年月を重ねてしまいます。40代以上で支援につながる人が増えていますが、働いていても生活困窮で、人とのつながりがありません。社会のあらゆる困難の中に、発達障がいの課題があることが明らかです。

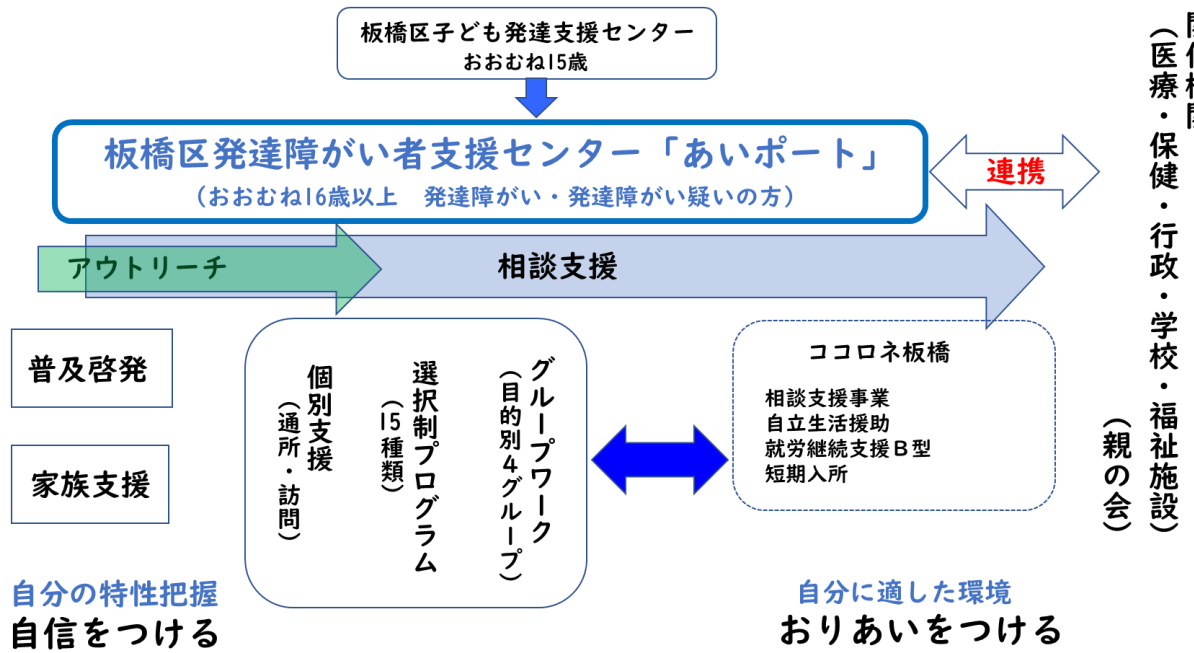
少しでも早い段階で、困難に気が付き、支援につなげることができるよう、今後とも職員一同努力してまいります。

板橋区および親の会、関係者のみなさまのご尽力、および、利用者のみなさまのご協力に、こころより感謝いたします。

板橋区発達障がい者支援センター センター長 小山 伸子

発達障がいのある人が生きやすい社会をめざして、
障がいの理解、社会参加の場の提供、環境の整備にとりくみます。

埋もれていたニーズの掘り起こし

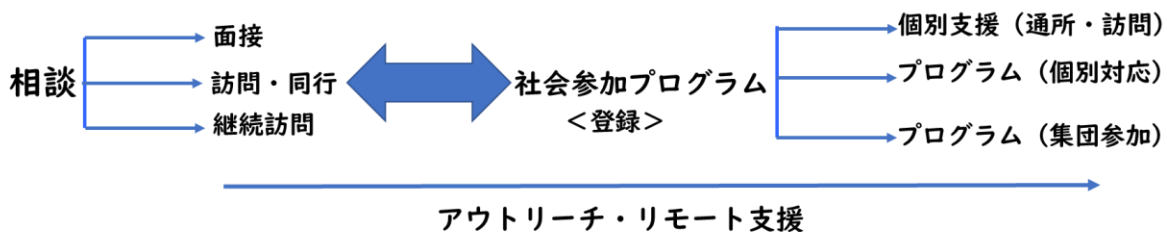


「あいポート」の支援

支援を受けることが難しい人を
支援につなげるしくみ

発達障がいの特性に合わせた環境

本人を含めたチームでアセスメント (自分を知る)



2021年度あいポート事業報告書

資料集

目次

はじめに	……1
事業概要	……2
目次	……3
法人代表あいさつ	……4
1 2021年度 事業報告	……5
2 利用者の声	……17
3 事業協力者の寄稿	……20
4 資料集	……23

法人代表あいさつ

インクルーシブ社会とは、社会を構成するすべての人は、多様な属性やニーズを持っていることを前提として、性別や人種、民族や国籍、出身地や 社会的地位、障害の有無など、その持っている属性によって排除されることなく、誰もが構成員の一員として分け隔てられることなく、地域であたりまえに存在し、生活することができる社会をいう。インクルージョン、(社会的) 包摂、包容ともいう。

インクルーシブ社会は、単に障害のある者となない者とは、単に同じ空間を共有できるようにするだけでは足りない。障害のない者の生活、コミュニティ、社会等の環境を変えることなく、ただ障害者を受け入れるだけの状態は「統合 (integration)」と言われる。インクルーシブ社会は、すべての障害者が、ありのままの状態ですべての社会に存在することができる社会である。その実現のために必要であれば、障害のない者の生活、コミュニティ、慣習、文化等の社会のありようの方を変容させることを志向する。

「インクルーシブ社会」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』2022 年09月23日(日)

URL: <https://ja.wikipedia.org>

私たちの法人が夢見ているのはまさにこのようなインクルーシブ社会の実現です。しかし、日本の社会はそのスタート地点に立ったばかりであり現状はまだまだ厳しく、当事者や家族は様々な困難を抱えておられることと思います。私たちの法人は板橋区発達障がい者支援センターやココロネ板橋のサービスにより当事者や当事者家族をサポートするための努力を続けると共に、インクルーシブ社会の実現に向けた様々な取り組みを少しずつでも実行していこうと思っています。

本当のインクルーシブ社会が実現すれば、私たちのサービスが必要なくなる時が来るかもしれません。そのような社会を夢見ながらみなさんと対話を続けていきたいと思っています。今後とも板橋区発達障がい者支援センターおよびココロネ板橋の運営に対するご理解、ご協力をお願いいたします。

平成医療福祉グループ

代表 武久敬洋

(社会福祉法人 関西中央福社会)

I 2021年度 事業報告

I 事業の実績

第I 相談事業

事業の概要

- 相談者実人数は匿名の方を含めて485人、新規相談者は年間246人、月ごとの変化はあるものの、年間通してコンスタントに増えている。
- 初回相談（電話）から面接につながる方は約7割、電話相談のみで終了するのは、匿名希望やとりあえず事業内容が知りたい、主訴が発達障がいではないなど。
- 初回面接から継続支援となるのは9割以上。初回面接での終了は、本人が来所の可能性がない、主訴が発達障がい以外であったなど少数である。
- 継続者の区外転居、音信不通などによる終結は年度末に確定し、約2割だった。
- 連携する医療機関は10か所以上に増加し、分散して依頼できている。
- 未診断の方に対して、検査専門の心理士により、WAIS（知能検査）を実施した。フィードバックは家族、担当職員が同席し、本人と結果を共有した。自己収入がない方を優先としているが、希望者が多く3ヵ月待ちとなっている。

実績数値

相談者実人数、延べ件数など

項目	2021年度	前年度(5ヵ月間)	開設以来の総数
相談者実人数	485人	239人	485人
新規相談者実人数	246人 (月平均 20.5人)	239人	485人
継続相談者(年度末)	279人	123人	
終結人数(年度末)	63人	0人	
相談延べ件数	5985件	1505件	7490件

2021年度相談延べ件数の内訳

相談方法	電話	来所	訪問	その他
件数	2172件(36%)	3570件(60%)	144件(2.4%)	99件(1.6%)

終結理由

音信不通、連絡待ちのまま終結など	27人
家族相談のみで本人に話していない、来所の見込みがないなど	20人
区外転出	3人
就学(復学)	3人
就労(アルバイト含む)	3人
本人へ情報提供のみ	3人
他機関利用(障害福祉サービス)	2人
他機関利用(医療)	1人
対象外	1人
合計	63人

心理検査

対象:未受診または発達障害未診断で、自己収入のない方を優先

心理検査(2021年1月~2022年3月)受検者数と内訳

受検者(39人)の状況

クリニック既往	16人	未受診・主治医なし	23人	合計39人
---------	-----	-----------	-----	-------

検査後の対応

既往クリニックに報告	14人	既往クリニックから転院	2人
医療機関紹介	16人	愛の手帳紹介	2人
他機関紹介	1人	医療機関案内したが未受診	3人
医療機関案内したがその後不明	1人	合計	39人

検査結果の数値

知的障がい、知的ボーダー

IQ70未満	3人
IQ70~85	12人

群指数の差(得意と不得意の差)

15以上	39人(全員)
25以上	33人(85%)
40以上	16人(33%)

相談支援の分析と課題

相談支援

- あいポートの事業は卒業がなく、他事業の併用ができるため、一度つながれば就職や就労支援施設への通所が安定しても相談は継続し、月1回程度プログラムを利用することが多い。不安定な時は密度濃く、安定すれば細く長く支援が継続する目的が実現できている。その一方で、今年度末すでに、職員一人当たりの担当相談者数は平均70人となっている。
- 初年度はひきこもる方への家庭訪問に取り組んだが、コロナ感染拡大により訪問がしにくい状況となった。また自分のテリトリーに侵入されることを好まない方が多く、敏感な方たちの安全を脅かさない方法として、リモート面接、リモートでのプログラム参加、メールなどを検討し、一部導入した。
- 訪問にカウントされている同行支援（医療機関、役所、福祉施設など）に積極的に取り組み、社会参加を進めるとともに、相談者との関係づくりに役立った。
- 相談者が増えて、相談室が足りなくなり、倉庫を3つ目の相談室に改修した。クールダウンのために、廊下の隅に休憩スペースを作った。

心理検査の分析と課題

- 心理検査は長期ひきこもりの方が検査に来所する、家族も含めて結果を共有できる、その後の支援や自己理解に確実につなげることができるなど、支援機関で実施するメリットはある。
- 面接やプログラム利用によるアセスメント結果を含めて、紹介先医療機関に情報提供している。
- 検査の種類はWAIS（知能検査）のみであるが、検査の種類を増やす、または職員のアセスメントの構造化を検討する。
- 知的ボーダーの方が約3割と多く、生活困難の一因となっている。一般社会で手助けなしに生きる苦勞が想像できる結果であった。

第2 プログラム（社会参加訓練）

事業の概要

- 来所するモチベーションや職員との関係づくり、特性の自己理解のために、多様なプログラムを実施した。面接だけではつながらない方がプログラム参加を目的に来所し、併せて面接を実施できることも多い。
- 利用者のニーズに合わせて新たにグループワークを3つ、選択制プログラムを4つ増やした。
- 講師として、その道のプロフェッショナルを導入することで、質の高いプログラムを提供できた。外部講師の存在により施設の風通しがよくなり、また職員とは異なる世界の人と知り合うことで、経験の幅を広げることに役に立っている。
- 年度末にプログラム利用者にアンケート調査を実施した。（アンケート調査結果はP9）

実績数値

項目	2021年度	開設以来の総数
利用実人数	134人	152人
登録人数	57人	57人
延べ利用人数	2156人	2417人

プログラム別参加人数

	プログラム名	開催回数	延べ利用人数	1回の平均人数
1	水曜グループワーク(AM)	48回	343人	7.1人
2	木曜グループワーク(PM,女性のみ)	40回(5月開始)	134人	3.4人
3	金曜グループワーク(AM,就労準備)	34回(7月開始)	291人	8.6人
4	3Dデザイン自主勉強会	70回	351人	5人
5	パソコン教室	43回	177人	4.1人
6	音楽の時間	20回	98人	4.9人
7	土曜クラブ	12回	210人	17.5人
8	アロマ教室	11回	70人	6.4人
9	囲碁オセロ将棋	6回(8月開始)	23人	3.8人
10	メンバー情報交換会	9回	77人	8.6人
11	SST	4回	19人	4.8人
12	演劇部	2回(2月開始)	19人	9.5人
13	布コラージュアート	3回(1月開始)	18人	6人
14	身体楽々グループ活動	14回(8月開始)	60人	4.3人
15	身体楽々パーソナルトレーニング	51日※	137人	2.7人/日
16	利用者学習会(防災セミナー)	1回	4人	4人
17	少人数グループワーク	2回	3人	1.5人
18	コンサートスタッフ	2回	16人	8人
19	ストレッチ呼吸法(ワークス合同)	2回	2人	1人
20	個別支援		104人	
合計		374回	2156人	5.5人

※・・・1日あたり数コマ実施している

利用者アンケート調査結果

プログラム名	意見
水曜グループワーク	どこかに出かけたりして息抜きになり、次の活動が楽しみ。
木曜グループワーク	人数少ない中でも楽しく遊べて満足。
金曜グループワーク	就労に向け自分に仲間ができたように感じ励まされている。/自分の特性や就職の事が詳しく知れてためになる。/毎回就労について学べる。スタッフやメンバーと話し合う中で就労意欲が高まった。
土曜クラブ	いつも息抜きになって楽しい。/一番楽しいのでずっと続けてほしい。
3Dデザイン自主勉強会	利用者間の交流が欲しい。お互いの作品を見せ合うみたい。
パソコン教室	初心者の方でも安心して学べる内容になっていていいと思う。便利な操作も覚えられるので生活でも役立つ。
アロマ教室	リラックスとリフレッシュが両方出来る。/講師の言葉にいつも癒されている。
音楽の時間	仕事で出られない事もあるが、とても楽しいのでこれからも出続けたい。
演劇部	子供時代にできなかったことをしつつ対人スキルが自然に身に付く。
SST	実践的なので助かる。/毎月行ってほしい。
あると良いと思うプログラム等	カラーの勉強会。/バドミントン、卓球など体育や太極拳なども学びたい。/プログラミングをしたい。/絵を描くプログラムが欲しい。/求人募集、面談の場所など、直接採用内定につながるものが欲しい。/経済不安に対する適切な対処法や解消法を案内するプログラムが欲しい。/自分の棚卸や掘り下げなどの発表会をしてみてもどうか。/植物セラピーのプログラム。/色々なところに飾りような絵描きクラブを作りたい。/鉄道の話をするプログラムが欲しい。/認知行動療法等の学びに関するプログラムがあると参加したい。自分の考えのゆがみや色々な考え方があると学べると自信が付き就労にも挑めるかと思う。/話す練習（伝える、聞くなど）をする場所。

分析と課題

登録について

○初回面接までの待機が長いと、初回面接終了後すぐに体験利用できるようにしたが、診断確定まで時間がかかることもあり、未登録が多くなった。体験1か月ほどで登録するように周知した。

グループワーク

○固定メンバーで対人関係を体験する目的での設定。1グループ週1回1時間半は、緊張の強い方が対人関係を体験し、仲間と出会う場として十分な頻度と時間と思われる。

○午前中のグループは通所率が高く、参加人数が増えている。集団が苦手な方の個別支援をグループにつなげる少人数グループワークを開始した。

○女性グループワークは後半参加者が減少したため、終了とした。異性が苦手な方にはアロマ教室など、参加者のほとんどが女性のプログラムにお誘いしている。女性の悩みに応える取り組みについては、今後単発や期間限定などで企画していく。

選択制プログラム

- 土曜クラブは就労している方を中心とする当事者会として、固定メンバーが増えて、最も参加人数が多い。自閉症啓発デイやコンサートに協力する活動母体となっている。
- 身体楽々パーソナルトレーニングは、身体の痛みがある、動きが不器用、集団参加が難しい方を対象にした機能訓練として設定している。結果としてひきこもりがちな方の第一歩に活用されており、このプログラムだけ利用する方もいる。こころより体に着目したほうが支援を受けやすい場合もあるといえる。
- 情報交換会は大人になってから診断の出た方を対象に、毎回異なるテーマで、顔ぶれは変化しながら参加者は増えている。一般就労で自分の特性に悩んでいる方や情報を得たい方が参加する場所となっている。
- アロマ教室は静かな雰囲気や女性が多く、体調が整わない方も参加できている。
- パソコン教室は参加者の技能や目的に差があり、内容を工夫してから参加人数が増えている。マンツーマンでの対応を要する初歩の方もいるため、次年度、「はじめてのPC教室」を開始することとした。
- 囲碁オセロ将棋プログラムは参加者が少ないため、次年度で終了予定。
- 布コラージュアートは、スキルのいらぬ、布と遊ぶ時間として固定した参加者が増えている。ひきこもりがちな人が参加できるようになっている。
- 演劇部は共感性や観察力をつけるコミュニケーションにも役立つプログラムとなっている。

第3 家族支援

事業の概要

- 家族学習会は板橋区発達障害児者親の会と連携して開始した。ニーズは明白であったが、コロナ感染拡大により8月に中断とした。
- 本人が不登校やひきこもり状態で、来所できず、訪問も難しい場合には、必要に応じて家族相談を継続した。

実績数値

○2020年度 5回開催、延べ63人参加

○2021年度

日時	内容	参加人数
4月17日	プログラム体験ストレッチ呼吸法・情報交換会	13人
7月24日	自立について(グループホームとショートステイ)	17人

分析と課題

家族相談

- 不登校・ひきこもり、外出はするが社会的所属がないなど、家族のみが本人を支えている状況が少なくない。長期化すると家族自身が体調不良や孤立など、追い詰められてしまう状況がある。
- 本人の主な支援者となっている家族を支えることは重要であり、家族が安定することで本人に変化が訪れ、来所することもある。家族支援はピアの力が大事なので、親の会の協力を得て、家族学習会を定期開催することが必要である。

第4 普及啓発

事業の概要

○講演会はコロナ感染拡大により、動画配信中心に切り替えて、年7回開催。対面の場合は、会場の広さにより入場人数に制約があるが、動画配信の場合は制約がないため、おおむね150人程度の視聴となった。

実績等

対面実施

日程	内容	会場	参加人数
6月6日	開設記念コンサート「0歳からのジャズコンサート」(共催:Office Yokota) ※会場で関係機関のパネル展示	グリーンホール 1階ホール (2回公演)	大人123人 子ども79人 計202人
7月31日	発達障がいを理解するシンポジウム① 「子どもの育ちを支える環境と思春期 +大人の発達障がいの現状」	グリーンホール 601会議室	40人
合計			242人

動画配信

内容	配信期間	申込件数・ 視聴回数
「自閉スペクトラム症/障害(発達障害)～精神医学、この多様性の世界～」 (精神科医 石山淳一)	4月～9月	145件・ 248回
ライノセラスのデモンストレーション (アプリクラフト 中島淳雄)	4月～9月	7件・ 22回
板橋区発達障がい者支援センター 開設記念講演「おとなの発達障がい」 (大正大学教授 内山登紀夫) ※再配信	7月26日～ 8月16日	151件・ 181回
発達障がいを理解するシンポジウム 「子どもの育ちを支える環境と思春期+大人の発達障がいの現状」 (港区児童相談所心理療法専門員 新井豊吉、立教大学教授 結城俊哉、あいポート 小山伸子)	8月31日～ 11月30日	152件・ 440回
「大人の発達障害の医療と支援の今後」 (神経研究所理事長 加藤進昌)	11月20日～ 3月31日	161件・ 257回
発達障がいセミナー『障がい者の「生きづらさ」を考える～「ケアの眼差し」を手がかりとして～』座談会 ※板橋区障がい者福祉センター主催 (立教大学教授 結城俊哉、IJ の会代表 鈴木正子、全国療育相談センター副センター長 米山明、板橋特別支援学校長 深井敏行、あいポート 小山伸子)	2月1日～ 3月22日	153件・ 151回
合計		769件・ 1299回

分析と課題

- 外出に困難のある利用者や高齢者、多忙な支援者にとって、動画配信は負担が少なく参加できる学びの機会として好評だった。
- 主催者にとっても、コロナ感染の状況に左右されずに実施できることや、会場管理の労力が省かれるメリットがある。その一方で、質疑応答を設定しにくい、受講者の意見を拾いにくいなどの課題はある。今後は対面と配信両方の良い点を活かしながら、開催方法を検討する。
- 本人、家族も学ぶ機会を求めており、不特定多数を対象とする普及啓発だけでなく、あいポート利用者、家族のニーズに対応した小規模の情報提供の機会を増やしたい。

第5 関係機関(地域)との連携

事業の概要

- 区役所障がいサービス課とは定期的な会議を実施して情報交換し、現状の把握や役割分担しての取り組みができています。
- 区内連携会議への参加が増えた。
- 運営委員会では、当事者や関係者など様々な立場から、意見をいただき、内容を検討することができた。

実績等

(1) 運営委員会 ※すべてオンライン開催

日程	内容
6月25日 参加9人	1.各事業実施内容報告(相談、プログラム、家族学習会、普及啓発、関係機関連携) 2.令和3年度 板橋区発達障がい者支援センター事業計画 3.新任委員紹介
10月12日 参加8人	1.各事業実施内容報告(相談実績、社会参加訓練、家族学習会、普及啓発) 2.現状と課題 3.ココロネットワークス事業報告
2月22日 参加8人	1.報告事項(あいポート実績、ココロネットワークス実績、児童発達支援センター準備状況) 2.協議事項(現状と課題、来年度事業計画、相談支援事業について)

運営委員メンバー

結城 俊哉(委員長)	立教大学コミュニティ福祉学部教授
鈴木 正子(副委員長)	板橋区発達障害児者親の会(IJの会)代表
白石 敏枝(副委員長)	板橋区発達障害児者親の会(IJの会)副代表
長瀬 美香	板橋区子ども発達支援センター所長
米山 明	全国療育相談センター 副センター長/心身障害児総合医療療育センター
今井 忠	NPO 法人東京都自閉症協会 副理事長
秋吉 麻帆	地域活動支援センタースペースピア センター長(社会福祉法人JHC板橋会)
石野 哲朗	練馬区立光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ 施設長

中村 博志	板橋区立障がい者福祉センター 次長
深井 敏行	東京都立板橋特別支援学校校長
匿名	あいポート利用者代表

(2) 地域会議への参加

乳幼児の発達を考えるネットワーク	2回・1人
自立支援協議会相談支援部会	2回・1人
区役所との定例会議	11回・2人

(3) あいポート事業紹介と発達障がいの勉強会

城北子どもの医療ネットワーク研修会（児童精神科医）ハイブリッド	150人
板橋福祉を考える会（区民有志）リモート	9人
帝京大学精神科医局勉強会（精神科医）リモート	10人

(4) その他

見学・事業説明 13件、情報交換13件（帝京大学医学部附属病院、成増厚生病院、メンタルクリニックいたばし、櫻和メンタルクリニック、オリーブメンタルクリニック、上板橋こころの診療所、自立支援協議会相談部会、城北ネット、福祉を考える会、区議会議員視察、区内特別支援教室教員20名来所、目黒区発達障害支援拠点など）

分析と課題

- 大人の発達障がいへの関心が高く、たくさんの勉強会や情報交換の依頼を受けた。
- 医療機関と連携するためのリモート会議が増えた。医師とお会いしたうえで、受診紹介ができる医療機関が増えている。

第6 職員育成

事業の概要

- コロナ感染拡大もあり、実習などの対面研修を十分確保できなかった。
- 東京都研修がコロナ感染対策によりオンラインとなり、受講定員が増えて、参加の負担も少ないため、たくさんの研修を受講できた。

実績等

外部研修参加（すべてオンライン）

主催	回数	参加人数	主な内容
正夢の会	10回	5人	『発達障害の特性』『自閉症の人の支援』
やどかり研究所	2回	5人	『ケアの担い手に求められる研究的視点が育てる「臨床力」とは』など
TOSCA	2回	1人	『アセスメント技術を高める研修会』など

東京ソテリア	5回	1人	『当事者活動から考える支援のあり方』
大府福祉会	2回	1人	『強度行動障害者への標準的支援とは』
東京 TS ネット	2回	1人	『誰も排除しない地域へ』
日本臨床心理士会	2回	1人	『実行機能の発達と脳の関係』など
ココロネ板橋	1回	6人	障害福祉
合計	26回	延べ21人	

内部研修実施

内容	参加人数
新人研修(発達障害、マール相談支援事務所実習、ココロネットワークス実習)	1人
相談支援研修(3回1クール) 講師:結城俊哉(立教大学)	6人
『一般相談と特定相談』 講師:内海康範(マール相談支援事業所)	6人
『元気に働き続けるための心身の管理』 講師:石山淳一(精神科医)	6人
合計	4回 延べ19人

分析と課題

○リモート研修は負担なく、数多く参加できるメリットがある一方、対面ならではの他機関職員との交流や密度の濃い質疑応答などが得られなかった。

○コロナ感染予防により、実習が最小限になった。

II 事業の成果

全国的に支援が確立していない大人の発達障がいについて、板橋区が独自に取り組んだ先駆的な事業である。開設と同時に多くの相談が集まり、ニーズの高さと、大人の発達障がいに関する課題が明白となっている。

既存の福祉サービスではカバーできない、制度の狭間にある無支援状態の課題を明らかにし、今後の方向性が明確になった。

1 見えてきた課題

- ① 発達障がいの診断は出ても、既存のサービスに合わず、支援を受けにくい。
- ② 知的障がいを伴う発達障がい者の不登校やひきこもりが増えている。本来、知的障がい者支援の中でカバーされるべき課題が、自閉症スペクトラムやADHD特性への理解不足もあり、あいポートにもちこまれている側面がある。
- ③ 不登校、ひきこもりの長期化による、家族全体の生活困難が明らかである。
- ④ 発達障がいを見逃されて、無支援のまま成長した方の生活困難と孤立が明らかである。

2 1年半で485人の相談を受け、たくさんの当事者の声を聴くことができた。

3 聞き取ったニーズを当事者や関係者と共に検討し、課題を明確にすることで、適した支援の枠組みを実現する

ことができた。また今後の方向性が明確となった。

- 4 孤立したひきこもり状態から支援につながり、仲間をつくり、自分に適した将来像を共に考え、少しずつ一歩を進める方が増えた。
- 5 連携する医療機関、支援施設が増えた。
- 6 講演会や研修にたくさんの参加があり、大人の発達障がいに関する普及啓発に貢献することができた。

Ⅲ 今後の方向性

- 1 発達障がい者の多くが、障害福祉サービスを利用していない実態が明らかであり、国の制度によらない先進的な区の独自事業の意義が明確である。しかし区事業にできることは限界があり、対象者は増加し続けているため、国の制度を活用し、発達障がいの特性に適した支援の拡充をはかる。
 - ① 「ココロネットワーク」就労継続支援B型事業所との連携
 - ② 「ココロルームズ」短期入所との連携
 - ③ ココロネ板橋相談支援事業所(障がい児・特定相談・地域移行・地域定着)・自立生活援助事業(2022年4月開設)との連携
- 2 家族の負担が重い実態が明らかであり、家族同士の交流や学びの機会を提供するとともに、本人が支援を受けながら自立した地域生活を送ることができるよう、相談支援事業所と連携して、支援の枠組みを確立する。
 - ① 定期的な家族学習会の実施
 - ② 家族の体験談と交流による学びの機会
 - ③ 障害者サービスの勉強会
- 3 長期ひきこもりからの一歩、特に敏感な方への支援の充実
 - ① 少人数のグループワーク
 - ② オンライン支援の活用
- 4 一人暮らしの実現や生活スキルの向上など利用者ニーズに応じたプログラムの増設
 - ① 利用者学習会(発達障がいの特性理解や活用できる福祉サービスについて学ぶ)
 - ② 生活講座(具体的なプラン作成、スキルの習得)
- 5 職員の支援力向上
 - ① 事例検討会の実施
 - ② 研修、実習の充実

見えてきた課題

- グレーゾーンの人たちは制度の狭間にあり無支援の状態で苦勞している。
- 合わない環境での不適応や困難が大きい状況となっている。
- 社会のあらゆる困難の中に発達障がいの問題がある。

有効な支援

- ★（敏感な人が多いので）発達障がいの特性に配慮した環境整備
- ★（人の中に入ることを恐れるので）人と交流しなくてもできるプログラム
- ★（慎重な人が多いので）個別支援と段階をふんだ集団参加
- ★（マイナス体験を重ねているので）安心して失敗できる雰囲気
- ★（誰より発達障がいを体感している）当事者同士の支えあいの機会をつくる

IV 職員体制

2021年度

常勤4人	非常勤3人	合計 7人
センター長1人、相談員3人 資格（社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士）	心理検査、プログラム、相談、 事務担当 資格（理学療法士・精神保健福 祉士・学校心理士）	常勤換算 4.7人

2022年度

常勤6人	非常勤2人	合計 8人
センター長1人、相談員5人 資格（社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士）	心理検査、プログラム担当 資格（理学療法士・学校心理士）	常勤換算 6.3人

★板橋区からの委託費増額により、常勤相談員を増員することができた。

3 利用者の声

あいポートを利用してみて思うことを6名の方に文章でまとめていただきました。

私はアスペルガー症候群と診断され、「社交不安と鬱」に悩んでいます。病院にも通っていますがあまり改善せず、根本にある発達障害と向き合う必要を感じ、TOSCA の紹介（電話）を受け、あいポートを利用することになりました。

最初は相談のみの予定でしたが、土曜クラブ（当事者茶話会）に誘ってもらえたことが、今もあいポートを利用しているきっかけになりました。

茶話会には同じように発達障害で苦勞している人と懇親しますが、そこでは自分を偽らずありのままの自分で楽しめ、気付くと肯定感が生まれていました。

その後も情報交換会で発達障害の理解を深め、辛さや苦勞の共感もできました。

少しずつですが、自分と向き合えるようになっていきます。

あいポートは性別、年齢、特性を越え利用できる貴重な場所だと私は思います。これからも利用したいです。

発達障害がわかったのは仕事をしていても全く覚えられないし身につかなかった。子供の発達障害がわかったため、自分も発達障害なのではないかと思って受診をしてわかった。

あいポートを利用したきっかけは、障害について、自分自身について知る事で、対策ができるのではないかと思ったし、仲間が欲しかった。発達障害が認知されてきているとはいえ、気付いてなくて苦しんでいる人も多い。通ってみたらスタッフがパートナーのように悩みを考えてくれた。自分のように苦しんでいる人達が集まって話す場ができて安心できる場所になった。

家族面談をしたり、仕事の事も考えてくれたり、自分の疑問が1つ1つ剥がれていく実感があつた。メンバー達も自身を責めていて、そんな事も自己開示して話し合える場所。障害がある事は悪いのか、目に見えないだけで苦しんでいる。悩みを相談できる場所、仲間、支援者に支えられて得意不得意を周りに伝える事ができるようになった。

あいポートに通って良かった点は、幾つもの社会資源を知り得たことです。

私は、前職が初めての障害者雇用（1年目契約社員、2年目以降正社員）で4年程働きましたが、精神疾患に余り理解がなく退職せざるを得ませんでした。もっと早くあいポートを利用していれば、退職せずに済んだかなと思います。

これからは就労準備で知り得た幾つもの社会資源を利用し、障害者雇用で働く予定ですが、不安になっても自分が知り得た社会資源が味方です。

◆土曜クラブ

あいポートにいれば緊張感から開放されて、徐々にリラックスできる場所になっている。あいポートでは自分を認めてくれるからだと思う。

発言しなかった人も発言するようになってきた。最初はどういう人かわからなかったけど、慣れて打ち解けてきた。自分と似たところもあれば違うところもあるとわかった。自分の場合は、早くから障害がわかって、支援を求めてきた。それがよかったということを知ってきた。

◆演劇部

リトミックみたいな感じでやって身体を動かして、みんなストレス発散の場になっている。演劇も自分を表現する場になっている。

劇団員が2人きて、1人が司会をやっている。

そのままに表現するのではなくて、好きな名前をつけて、他の役になって、違った気持ちを体験することもやっている。同級生と久しぶりに会って、実際に覚えているかどうかというお芝居をみた。自分は参加しなくても、実際の場面に遭遇したら、とっさに言えない。その場合、相手がいるわけだし、相手に悪い感情を与えている場合があるかもしれないけど、どうしたらいい感じてふるまえるか、見て学ぶことができる。演劇部は、否定しないということがよいところだと思う。

あいポートの手厚いサポートには、大変お世話になってます。生活、金銭面、人間関係、仕事のことは支援員さんに相談することが多く、様々な場面で背中を押してもらい感謝しています。

あいポートのイベントの多さは、他の発達障害支援施設にはない特徴だと思います。イベントのジャンルの幅は広く、趣味のことから仕事のことまで取り扱っています。同じ発達障害の悩みを抱えている同士でのコミュニケーションをとるきっかけにもなりました。

生きづらさを抱えてますが、あいポートを利用することで、少しずつ前進していると感じています。

小学生の頃に発達障害と診断されましたが、一般社会でもやっていけるのではないかと思います19歳の時に専門学校へ入学しました。

しかし、努力しても周囲に全く追いつかず、圧力もかけられる日々に、一般社会で生きる資格は無いのではないかと思う程に追い詰められました。

専門学校を退学し、無気力に半年を過ごしていた頃に母があいポートを見つけて来ました。

当初は発達障害者の支援センターと聞いてもあまりピンと来ず、むしろ不安の方が大きくなっていましたが、このまま何もしないよりは良いと思い実際に来てみると、自分と同じ境遇、同じ特性を持つ人達と出会い、一緒に歩いていく事が救いになっていました。

同じものを共有出来る事がどれだけ大切な事だったのか、私はここに来て気付かされました。

どんなに躓いても生きていだけで良い、何度でも進める事を自分と同じ境遇の人達を見て思い、そういった考えに至れたことがここに来て良かったと思う事です。

あいポートを利用してよかったこと

社会人になってからはなかなかできない演劇やアート、気軽な交流やコミュニケーションができて良かった。

プログラムを通して人と話す機会をもてた。

3Dソフトの体験をして学ぶことのきっかけになった。

家族以外と絡む機会もなかったけど火曜日のグループワークに来てから家族以外と交流できて、自分の好きなゲーム(Switchの桃太郎電鉄)と1人じゃなく4人で出来たりで楽しめました!

フリースクールしか行ける場所がなかったけど、持続して行ける場所が増えてよかった。

外に出るのが苦手だけどここには来られて楽しめている。

外に出て人に関わる機会ができた。

あいポートにたどり着けなければ今自分がどうなっていたかわからない。板橋から離れないのもそれが理由。

多数の講師が来てくれ、これから就労する上での幅広い学びを得られたのが良かった。

布コラージュとか作品を通して話すきっかけができた。

病院の紹介や、定期的な面談をしてもらえる場所があることが有難かった。

ささいなことでも相談できるので、自分一人で抱えているよりは精神的な負担が軽くなった。つながっておいて損はないと思う。

4 事業協力者の寄稿

あいポート運営委員長 結城 俊哉
(立教大学コミュニティ福祉学部 教授)

現在、日本の障害者サービスにおいて支援施策が極めて希薄な状況でありながらも板橋区の独自事業として始まった取り組みが大人を対象とする「発達障がい者支援センター（以下、あいポート）」の取り組みである。事業開始後、そのニーズの高さは新規相談者の実数の増加の中に象徴的に示されている。そして、事業報告書において「あいポート」の存在がコミュニティの中で認知されるに従い、発達障がい者の支援ニーズの可視化に貢献していることがわかる。さらに、コロナ禍においてアウトリーチ活動が制限されながらも、医療との連携の広がりや社会参加プログラムの多様さは特筆すべきものがある。具体的には、当事者の障がい特性（対人関係作りの経験不足等）への対応も含めた社会参加活動の幅の広がりが持てるように利用者のニーズを取り入れながら丁寧に計画されたものが多く設定されている。そのため、これらのプログラムは支援活動として利用者に一方的に提供されるものではなく、利用者と「あいポート」が協同しながら発達障がい当事者の個別性を尊重しながら「主体性や社会性」を伸ばす機能を果たすことになる。

最後に、「あいポート」の今後の課題として、現在ある家族会と協同しながら新規の当事者家族に向けた家族学習会や家族相談等による支援の強化、さらに「発達障がい」の理解に向けた普及啓発活動と関係機関（地域）との連携の継続的発展が期待されている。そのためにも障害者福祉施策の手が届かない狭間に存在し支援を必要とする人たちの課題に積極的にチャレンジする「あいポート」という独自事業を通して市区町村の中でも先進的な時代をリードする役割が板橋区に求められているのだと思う。

あいポート運営副委員長 鈴木 正子
(板橋区発達障害児者親の会 IJ の会代表)

(あいポートの支援に感謝)～あいポートの事業報告から多くのことがわかります。とりわけ重要なのが「支援につながりにくい人への取り組み」を中心に据えていることです。このことは、長年多くの家族と関わってきた私たちにとって、とても大切なことであると実感しています。IJ の会の親たちは、大人になって様々な要因から困難に陥る当事者たちを見てきました。あいポートは発達障害者に対して、各人の状況に適切に対応してくれています。

たとえば最近のケースとして、子ども時代から知っている A さんの事例をあげます。彼はこれまで支援を受けてきませんでした。しかし大学卒業時、一般の学生と同じような就職は難しいことが明らかになりました。また両親の支援も見込めないつらい状況になりましたが、彼は支援を受けて就労することに強い抵抗を示し、うつ状態に陥り苦しんでいました。そうした状況で彼はあいポートにつながりました。プログラムの参加を始め、精神科を受診することになりました。しばらくして、驚いたことに、障害者手帳を取得して支援を受けて就労するという考えに変わったのです。彼の顔つきは、ぐっと穏やかになりました。

あらゆる困難を抱えた、既存の福祉の制度に合わず取り残された人たちにとって、あいポートは、やっとたどりついた、安心できる場所です。多様なプログラムが用意されており、そのどれもが、発達障害の特性に十分配慮されています。利用者が無理なく徐々に集団活動を行い、そしてゆくゆくは社会参加につながります。

働いている利用者のためには「土曜クラブ」があります。ここは、仲間と交流し、自分を知る場ともなっているようで、IJの会の当事者たちも、参加を楽しみにしています。何より本人が尊重され、安心して行ける場所があることは、とても大事です。

最後になりましたが、IJの会では、家族も当事者も、先駆的な支援を行う、あいポートがあって本当によかったと、日々感謝しています。

あいポート運営委員・事例検討会スーパーバイザー 米山 明
(全国療育相談センター 副センター長【前 板橋区子ども発達支援センター 所長】/
小児科・精神科医師)

板橋区発達障がい者支援センター「あいポート」が開設する直前に、新型コロナウイルス(COVID-19)感染が2020年初頭に始まり、現在まで感染拡大と減少を繰り返している。コロナ禍にあって、発達障がい(疑いも含め)のある人に、日常生活(家庭、職場、学校など)に様々な影響を与え、ストレス発散となる、趣味活動(例:屋内外のスポーツや鉄道ファン)などにも制限を受けるなど、心身に大きな影響をもたらした。

コロナ対策として、飛沫・接触感染対策でのマスクの着用を奨励されたが、「感覚過敏」のある人は、マスク着用で困難があり、周囲の理解を得られずに日々の生活に不安・抑うつ気分など困難が増した人も多い。

そのような状況の中で、あいポートの活動を振り返ると、様々な困難のある「発達障がい者」への相談や支援は、令和2年度と比較し利用者数の増加だけでなく、引きこもり者へのアウトリーチが始まり、当事者(個別支援やグループワークなどの社会参加プログラム)、家族支援や周囲の支援者(学校・会社など)との連絡調整、医療・就労(福祉行政)・保健、教育(学校など)さらに関係する家族会と連携のある支援など幅広く事業が行われた。

板橋区では、幼児期から概ね15歳までの発達に心配(偏りや遅れ)のある子どもの相談は、板橋区子ども発達支援センターが平成23年に開設され、今回あいポートが開設され、発達障がいのある人にとって、早期から切れ目のない支援システムが構築されつつあると実感している。

今後とも区内の困り感のある発達障がい者とその家族支援を継続し、障がいのない人と共に生きる、共生社会の構築をできることを願っており、微力ながらお手伝いを続けたいと思う。

あいポートスーパーバイザー 内山 登紀夫
(よこはま発達クリニック院長/福島学院大学大学院 教授)

発達障害の子どもや成人の支援を考えると、「障害」を考えない立場の支援者は少なくない。障害があってもなくても、子どもは子どもだから、皆と同じ対応で良いという主張を聞く。大体、そういう主張をする人は良い人で、善意と熱意に溢れていたりする。一方では、そのような主張をする人は障害特性を重視しない傾向があるので、具体的な支援手段や障害のアセスメントについてはあまり詳しくないと思う。

発達障害や自閉スペクトラム症、ADHDといった診断名や障害名がなぜあるのだろうか?そんな診断名は要らないという立場もある。

医学的診断を例にとるとわかりやすい。新型コロナがなぜこれほど大きな問題になったかという、従来のインフルエンザとも「風邪」とも治療法や対応が違うからである。当たり前だが、インフルエンザのワクチンや

治療法は新型コロナには効かない。

自閉スペクトラム症や ADHD という概念があるのは、通常の支援方法が効果がないか、時には悪影響があるからである。たまたま忘れ物をした子どもに「忘れ物しないように」注意することは効果があるかもしれない。ADHD の場合は注意をするだけで改善することは少なく、具体的な工夫が必要である。ただ、注意を繰り返していると自己評価が下がったり、自尊心を傷つけることにもなりかねない。

社会モデルで支援をすることには大いに賛成だが、支援が必要な状態の背景にある障害特性を忘れると、支援しているつもりで追い詰めていることになりかねない。

発達障害と総称しても、個々の個人の人々の特性や嗜好、興味や人生の目的は多様である。特性に配慮するという原則のもとで、個人の状況に合わせて支援プログラムを考える必要がある。センターで、多様なプログラムが実施されていることは、そのような発達障害の特性への理解にもとづいている。

5 資料集

プログラムカレンダー

あいポート 10月プログラムカレンダー

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
					1 ・パソコン教室 10:00~11:30 ・音楽の時間 14:00~15:00 ・メンバー情報交換会 14:00~15:30	2 休
3	4	5 ・水曜グループワーク 10:15~11:45 ・3D自主勉強会 14:00~16:00	6 ・はじめてのパソコン※③ 10:30~12:00 ・木曜グループワーク 14:00~15:30	7 ・金曜グループワーク※② 10:15~11:45 ・アロマ教室 13:00~14:30 ・身体薬々パーソナルトレーニング※⑤	8 ・身体薬々グループ活動 10:30~11:30 ・演劇部 14:00~16:00 ・3D自主勉強会 14:00~16:00 ・身体薬々パーソナルトレーニング※⑤	9 休
10	11 ・火曜グループワーク※① 14:00~15:30	12 ・水曜グループワーク 10:15~11:45 ・3D自主勉強会 14:00~16:00	13 ・パソコン教室 10:00~11:30 ・木曜グループワーク 14:00~15:30	14 ・金曜グループワーク※② 10:15~11:45 ・生活講座～人暮らしマイプラン(仮)～ 13:30~15:00	15 ・パソコン教室 10:00~11:30 ・土曜クラブ 14:00~16:00	16 休
17	18 ・火曜グループワーク※① 14:00~15:30	19 ・水曜グループワーク 10:15~11:45 ・3D自主勉強会 14:00~16:00	20 ・木曜グループワーク 14:00~15:30	21 ・金曜グループワーク※② 10:15~11:45 ・音楽の時間(ワークス合同) 13:30~14:30 ・アートの時間 14:00~15:30 ・身体薬々パーソナルトレーニング※⑤	22 ・はじめてのパソコン※③ ・3D自主勉強会 14:00~16:00 ・SST※⑥ 14:00~16:00 ・身体薬々パーソナルトレーニング※⑤	23 休
24	25 ・火曜グループワーク※① 14:00~15:30	26 ・3D自主勉強会 14:00~16:00	27 ・パソコン教室 10:00~11:30 ・木曜グループワーク 14:00~15:30	28 ・金曜グループワーク※② 10:15~11:45 ・布コラージュアート 14:00~15:30 ・身体薬々パーソナルトレーニング※⑤	29 ・家族学習会※④ 14:00~16:00	30 休
31						

発達障がいの特性にあわせたプログラム

枠組みは明確に、人への尊重は厳格に、それ以外は自由に

グループワーク
目的別4グループ

選択制プログラム
15種類
プロフェッショナルの活用
(専門講師)

個別支援室
一人に必要なことを

安心して失敗できる場所

人と交流しなくてもできること

プログラム紹介

【グループワーク】

家から出る、生活リズムをつくる、対人関係の練習、将来について考えるなど、目的別に4つのグループワークを実施。

開催日	目的
火曜（午後・2022年度より開始）	個別支援の延長。1対1から複数の関係に
水曜（午前中）	集団参加、対人関係の練習
木曜（午後）	午前中は活動しにくい人、対人関係の練習
金曜（午前）	就労についてのミーティング

【当事者ミーティング（金曜グループ・情報交換会・土曜クラブ）】

発達障がいの特性を共有し、新たな考えを得る機会

《テーマ》

- ・べき思考や特有の思考とのつきあい方 ・とっさのリアクションで苦勞すること
- ・人と関わる意味、生きやすくするための習慣 ・時間や物の管理について

「人と距離を詰め過ぎないように言われるがメリットがいまひとつわからない。」



「人との関係は距離というより頻度と考えたらどうか。車の運転と同じで近づくとぶつかるし、頻度があがると事故率もあがる。」

「疲れやストレスとの付き合い方」



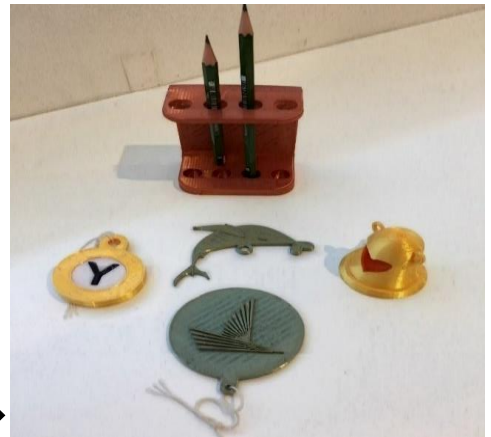
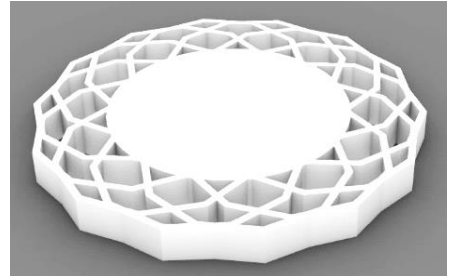
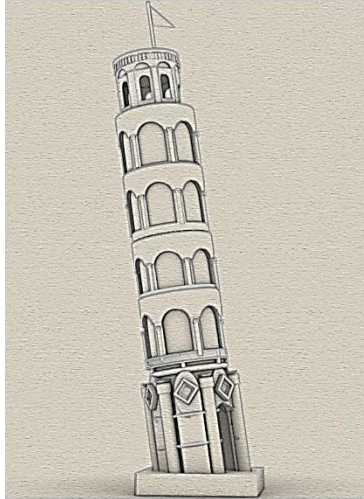
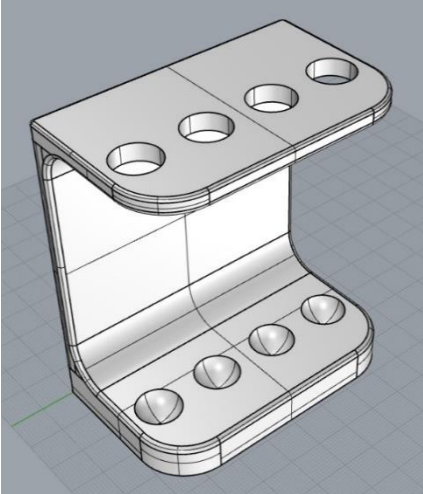
「発達障がいと言えない場所では“普通にふるまわなきゃ”ということに注力して疲れる。一人で自由に過ごせる時間を作っている。」「そもそも論として、いやなことを避ける、自分のハザードマップをつくる」

【3D デザイン自主勉強会】

視覚的空間認知の活用

Rhinoceros (ライノセラス)

3次元モデリングツール。建築、車、靴など様々な業界のデザインツールとして使用されている。



3D プリンターで製品を作成しています➡

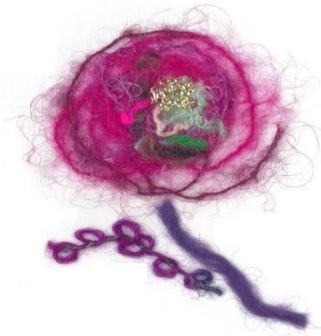
【布コラージュアートワークショップ】

安定した自閉世界が安心できるコミュニケーションの基盤

(精神科医:神田橋條治(精神科養生のコツ補講))



講師:藤井智美(日本芸術療法学会認定芸術療法士)
多種多様な布の中から好きな布を選び取り、ポストカードを台紙に切って貼ります。絵画やイラストが苦手という方も、布を台紙に貼るだけでも表情豊かな作品になります。



【演劇部】

自分ではない誰か、何かになることで自由になる



シアターゲーム

観察力、共感力を身につける

なりたい自分を演じる要素が取り込まれている。

利用者の声

「活舌が悪いのではっきり話せるようになりたい」

「発信力を付けたい」

講師：劇団「青年劇場」

全国で年間200ステージの公演活動を行う歴史ある劇団。

新宿に拠点があり演劇人養成校もある。

創立以来青少年の演劇活動に力を入れており、学校や福祉
団体とワークショップを開催している。

【音楽の時間】

声を出してストレス発散

🎵 音楽の時間 🎵

講師の菊池リカ先生のピアノ伴奏に合わせて、みんなで歌を歌います。
曲をリクエストしてみんなで一緒に歌いましょう！

【講師】 菊池リカ先生

【日時】 第1土曜日 14:00~15:00
第3金曜日 13:30~14:30

【場所】 多目的スペース

【定員】 10名

【対象者】 土曜日→社会参加訓練の登録者
金曜日→社会参加訓練の登録者、ココネワークス利用者

【参加の流れ】

- ・申込書に名前を記入して申し込んでください。
- ・当日、開始時間に会場にお越しください。

講師：菊池リカ (音楽講師)

歌詞集の中から好きな曲をリクエストし、ピアノ
の伴奏に合わせてみんなで歌う。利用者が歌い
やすい音階で自由な演奏を楽しみながらリフレ
ッシュできる。



【SST】

生活や仕事で役立つコミュニケーション訓練

あいポート選択制プログラム

SST

(ソーシャルスキルズトレーニング)

SSTはコミュニケーションに自信をつけるためのプログラムです。
具体的な場面をつくり、行動の予行練習(リハーサル)をすることで今後の実践に活かします。

テーマ 「仕事」

(例) ■忙しそうに上司に声をかける ■ミスをした時の報告の仕方
■仕事で余裕のない状況で声をかけられた時の受け答え

・日時 9月25日(土)14時~16時(開場 13時30分)
・会場 多目的スペース
・講師 清水 有香さん(精神保健福祉士・公認心理師)
・定員 8名程度(事前申込制)
・参加のしかた

もっと上手にできるようにになりたい場面を出し合い、工夫を話し合います。
特に掘り下げて練習したい場合はロールプレイをします。
良かった点について、皆からコメントをもらうことができます。
発言せずに聞いているだけの参加もOKです。

～ 現在働いている方・就労準備中の方のご参加をお待ちしております ～

様々な場面でSSTの講師をしている方です。

講師:清水有香(精神保健福祉士・公認心理師)
日常生活のコミュニケーションで対応に困るシチュエーションを出し合い、実際の場面を想定しながら対処法について参加者で話し合う。



【アロマ】


好きな香りでリラックス 気持ちよさを学ぶ

アロマ教室プログラム

「眠りが浅い」「冷えや凝りがなかなか取れない」
「何となく気分が晴れない」「イライラしやすい」「気力がわかない」
このようなお悩みはありませんか？

アロマを取り入れると、日々の暮らしがちょっと楽に、豊かになるかもしれません。

健康と美容について学びながら、アロマスプレーやハンドクリームなどのクラフト作りを楽しめるプログラムです。ご自分に合った香り、落ち着く香りを見つけてください。



【講師】大波美耶さん

【日時】毎月第1金曜日 13:00~14:30
前半:健康と美容についての講義 後半:クラフト作り

【対象】センターをご利用の方(利用には社会参加訓練事業の登録が必要です)

【定員】10名 事前申込制です。申込表にお名前を書いてください。

【参加費】毎回100円 ※作ったクラフトを持ち帰ることができます。

【場所】交流室



講師:大波美耶(英国IFA認定アロマセラピスト)
前半は季節に合わせた健康と美容のお話、後半はアロマを使ったクラフトづくり。ゆったりとした雰囲気の中で、自分の体調調べをしながら、その日の気分や体調に合う香りを探して調合する。

【アートの時間】

テーマにとらわれず自由にアートで表現する

アートの時間

水彩絵の具、アクリルガッシュ、色鉛筆、マジックなどたくさん画材や筆で、
 下絵を使った絵を描きましょう。
 下絵があるので、久しぶりに絵を描く方でも大丈夫。
 もちろん、自由に制作してもOKです！
 画面に向き合い、好きなイラストや絵を描きながら、おだやかに楽しい時間を過ごしましょう。

日時 毎月 第3金曜日
 14:00 ~ 15:30

場所 交流室

【講師】木村 太一 / 沖杉 春野
 【定員】10名
 【備考】事前申込制です。
 継続的に利用する場合は登録が必要です。

いろいろな画材を使って
 絵を描きましょう！

下絵を使うと、こんな感じの作品ができます！

講師：法人職員

水彩絵の具やアクリルで自由に描く。

下絵もあるので慣れない人も安心して参加できる。

【パソコン教室】

基本的なスキルの獲得 対人交流が苦手でも自分のペースで参加できる

講師：鈴木博子（民間事業所パソコン講師）

Word、Excel の基本的な操作方法をチラシ作成などの課題を通して学ぶ。少人数の講義形式。



2021年度 さくら町「春祭り」の収支報告

4月10日に行われましたさくら町内の春祭りは町内会のみなさんの協力のもと、無事終了することができました。今年度は新しく花火とDJプログラムを取り入れることにより、一層盛り上がりを見せました。また、この春祭りの収益は災害支援活動に活用したいと考えています。今後ともみなさまのご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2021年度「春祭り」の収支報告			
収入の部		支出の部	
項目	決算額	項目	決算額
前年度繰り越し分	¥156,350	運営会費	¥436,580
應徴振替加算	¥563,200	テント等レンタル費	¥248,870
振替金	¥265,800	花火	¥126,540
雑入金	¥195,000	受付代	¥21,000
雑収入	¥45,000	光熱費	¥95,820
役員会費	¥70,000	ピンポン会費	¥102,000
		金魚すくい	¥82,200
		紙芝居	¥45,200
		事務費	¥165,435
		広報	¥46,300
収入合計	¥1,395,350	支出合計	¥1,293,556
	前年度繰り越し分		¥126,794
合計	¥1,395,350	合計	¥1,395,350

収入の部

支出の部

観光周遊プラン

2022.6/1~9/30 スカイツース
 観光周遊券発行中 日本のお得なサービス

全コース 2名様より出発保証

北海道

道南三都めぐり 3日

大感謝祭 +
 ときめきカントリー 北海道

39,800円 ~ 93,800円

お申込と同時に
 お宿をお約束

お申込時ご宿泊の3日券までOK!!
 ときめきカントリー 北海道の観光周遊券はご宿泊までOK!!

【身体楽々パーソナルトレーニング】

こころより身体に着目する方が支援が受け入れやすい場合がある



講師：職員（理学療法士）

1対1で姿勢や体の動きの確認し、楽になるための動作法、運動を学ぶ。

- ・常に緊張して肩や腰が凝る
- ・姿勢が悪い
- ・身体の使い方が不器用
- ・集団が苦手
- ・発達障がいの特性に着目されたくない

発達障がいの特性に配慮した環境整備

【館内】静かでまぶしくない環境



【個別支援室】一人になれるスペース



【交流室】少人数で集まれるスペース



【休養スペース】クールダウンの場所

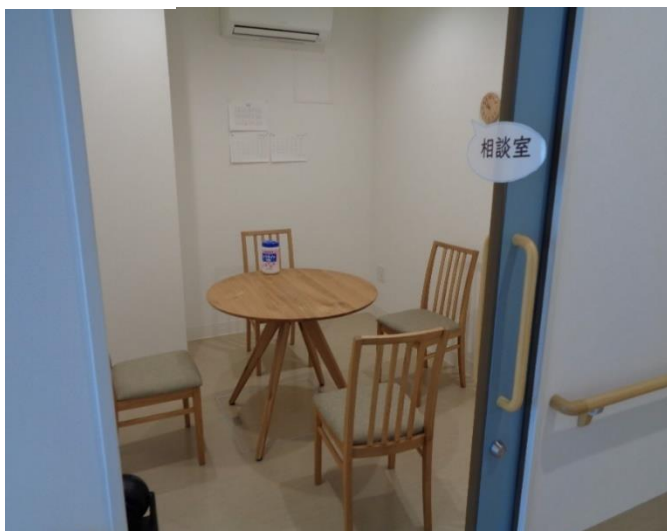


【タイプが異なる相談室】

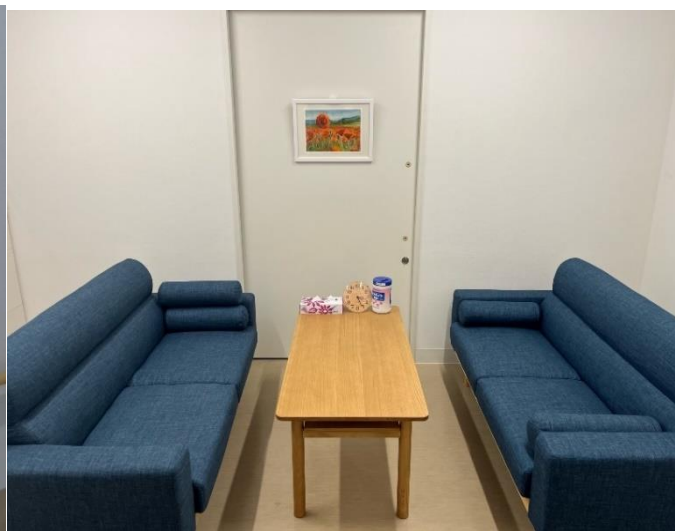
相談室①



相談室②



相談室③



【本棚】発達障がいに関する書籍の貸し出し



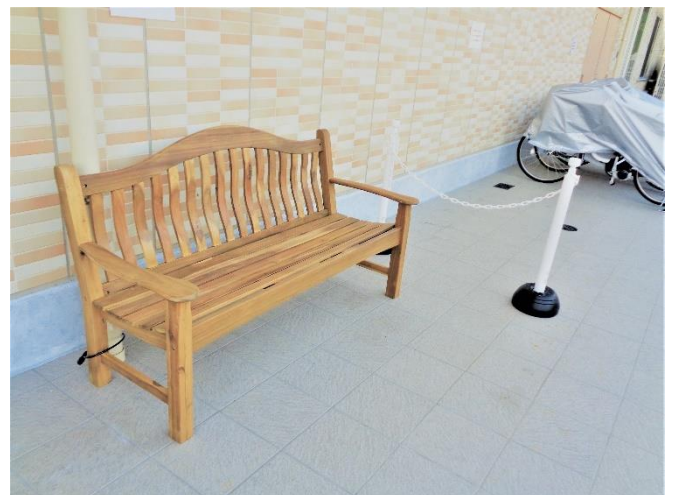
【イヤマフ】音に敏感な方へ貸し出し



【パソコン】調べものなどしたいときに利用可能



【専用の入りロ・ベンチ】



【周囲の環境】緑の小道



【中庭】世界自閉症啓発デーのライトアップ



運営法人「平成医療福祉グループ」(社会福祉法人 関西中央福祉会)

徳島に本部があり、“絶対に見捨てない。”を理念に掲げ、全国で病院、高齢者施設、障害者施設を運営しています。

ココロネ板橋

複合的な機能をもつ障がい児者支援の地域拠点です。

4階	短期入所(ココロネルームズ)
3階	生活介護(ココロネリビング)
2階	児童発達支援センター(ココロネキッズ)
1階	板橋区発達障がい者支援センター(あいポート)/就労継続支援B型(ココロネワークス)/相談支援事業

1階にココロネワークスが運営する「カフェねねね」を併設し、多くの地域住民の方に利用いただいています。

「カフェねねね」



「ランチメニュー」

